

インターンシップの現状と課題

－短期就業体験の紹介－

FD推進機構 特任教員
宮本 知加子
(臨床心理士)

■ 本日の予定

1. 就業力育成プログラム概要
2. インターンシップの種類・参加者数
3. 「キャリア形成」3つの特徴
4. 事例：短期就業体験
5. 学生指導において重視している観点
6. 指導に苦勞する学生
7. 今後の展望と課題

福岡工業大学の概要

●所在地

〒811-0295 福岡県福岡市東区和白東3-30-1

●沿革

- 1954年 福岡高等無線電信学校創設
- 1958年 学校法人福岡電波学園 福岡電波高等学校開設
- 1960年 福岡電子工業短期大学開設
- 1963年 福岡電波学園電子工業大学開学, 工学部開設
- 1966年 福岡工業大学に名称変更
- 1997年 情報工学部開設
- 2001年 社会環境学部開設



●建学の綱領

- 一. 学徒の品性を陶冶し真の国民としての教養を啓培する。
- 一. 宇宙の真理を探究しこれを実生活に応用して社会に貢献する。
- 一. 人類至高の精神, 自由平和信愛を基調として世界に雄飛する人材を育成する。

●学部構成(学生数) (2014年5月1日現在)

学部全体 4,149名 大学院全体 144名
(学部内訳)工学部 1,622名 情報工学部 1,771名 社会環境学部 756名
(大学院内訳)工学研究科修士 116名 工学研究科博士12名 社会環境学研究科修士 12名

●教職員数

専任教員 147名 専任事務職員 78名 嘱託・契約職員(常勤)81名

■ 本学のキャリア教育：就業力育成プログラム

3

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学 就業力育成支援GP 「4つの力」育成によるキャリア形成支援

[福岡工業大学TOP](#) [サイトマップ](#)

文字サイズ変更

HOME 本学の取組 就業力育成プログラム 学生サポートシステム 高校との連携 GPによる成果

就業力育成支援GP

4つの力で、夢をカタチに。

志向力 Intention Power →

共働力 Working Power →

解決力 Solution Power →

実践力 Practice Power →

■ 就業力育成プログラム

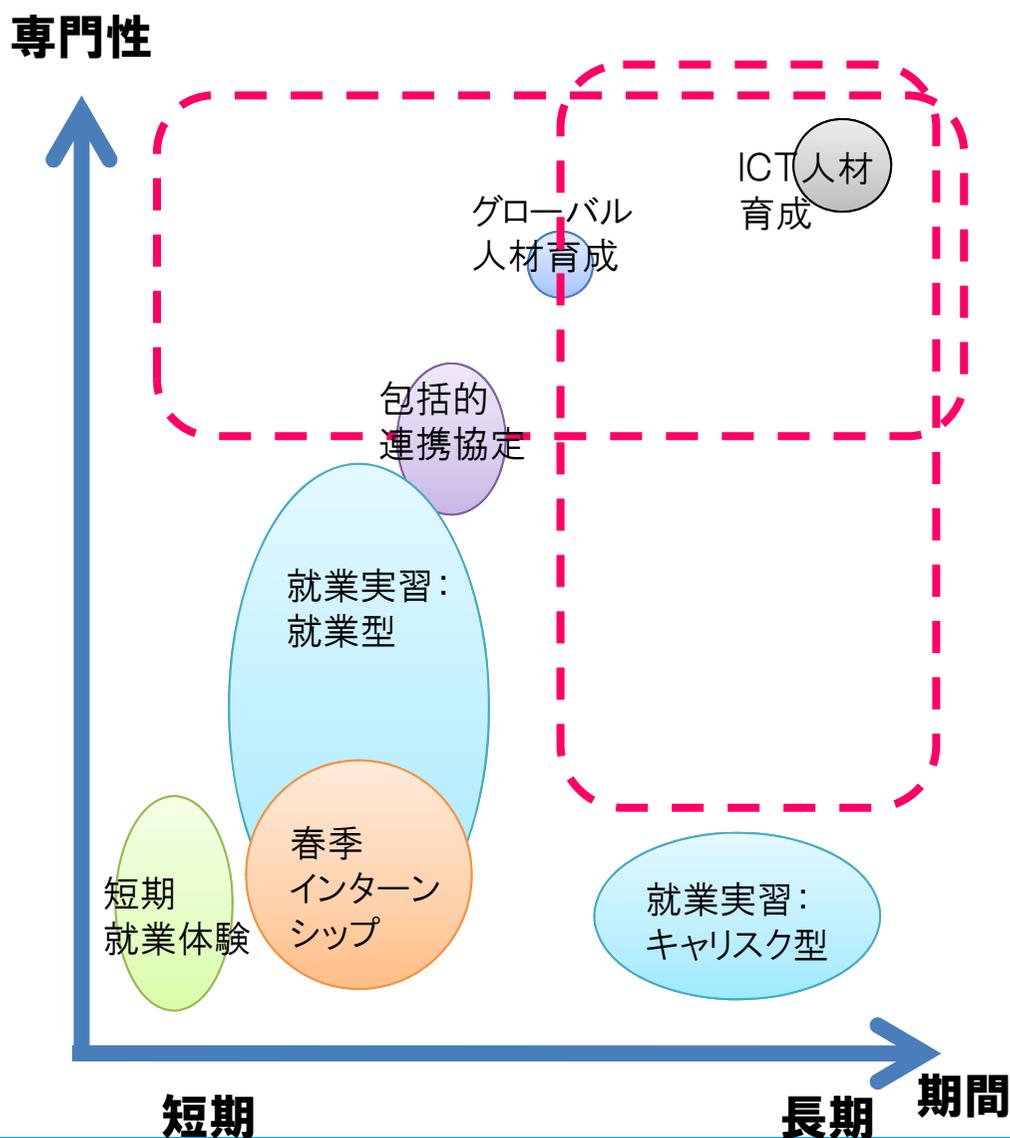


平成24年度開講

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
志向する力	★キャリア形成	①1, 2年次に基礎固め				課外の就職支援		
共働する力	日本語表現	★コミュニケーション基礎	②コミュニケーション教育関連科目を強化					
解決する力			技術者倫理			③課外の就職支援との連絡を図る		
実践する力	カリキュラム			就業実習	→	就業実習		
				← 特定専門科目				

就業力育成プログラムにおいて、実践する力として位置づいている

■ インターンシップの種類



短期就業体験
1年課外, 夏季休業中

就業実習就業型
2, 3年前期選択

就業実習キャリアスク型
2, 3年前期選択

春季インターンシップ
1, 2年課外: 春季休業中

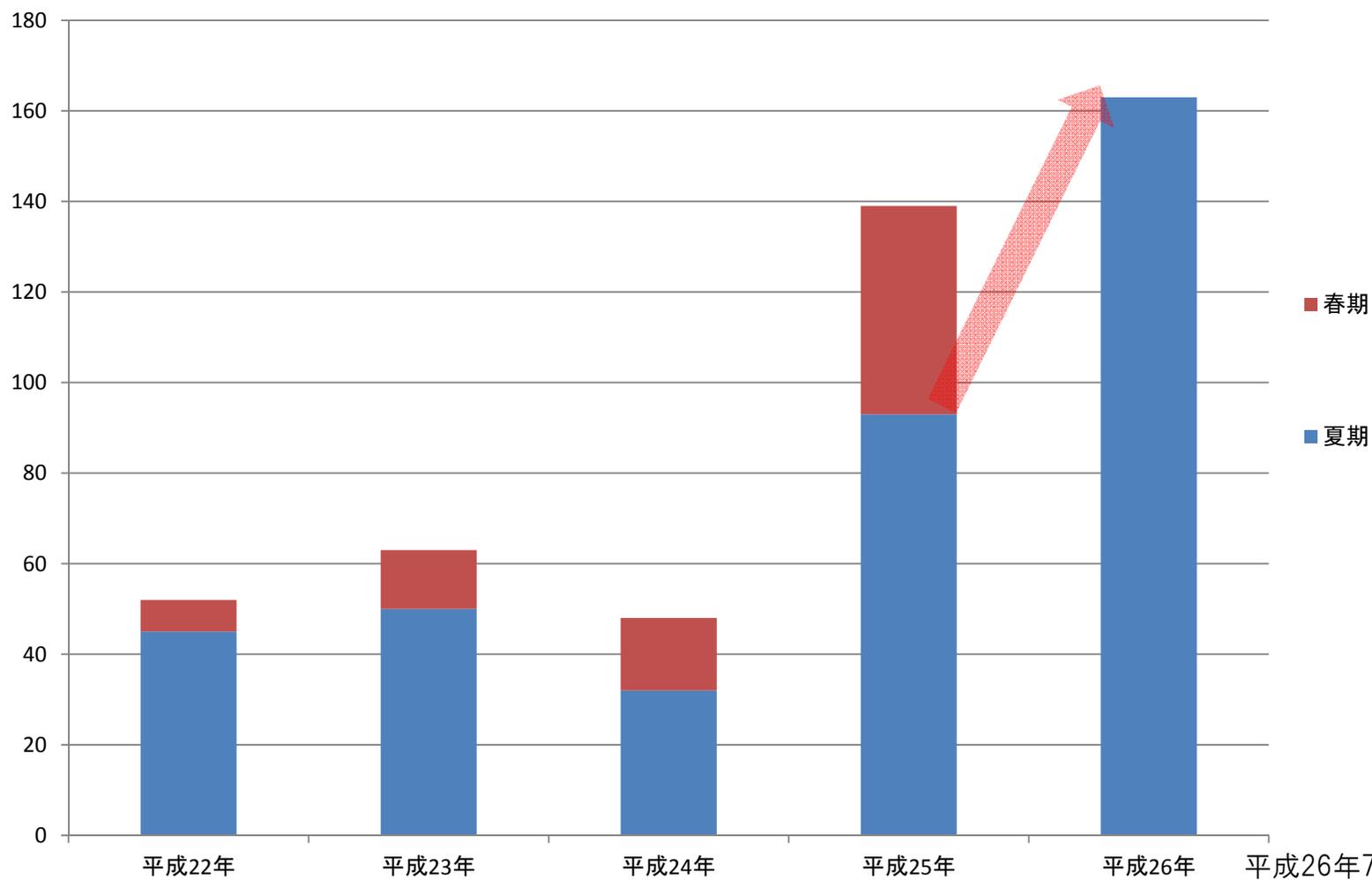
包括的連携協定インターンシップ
3年課外: 夏季・春季休業中

グローバル人材育成インターンシップ
2, 3年課外: 夏季休業中

ICT人材育成インターンシップ
大学院生課外: 夏季休業中

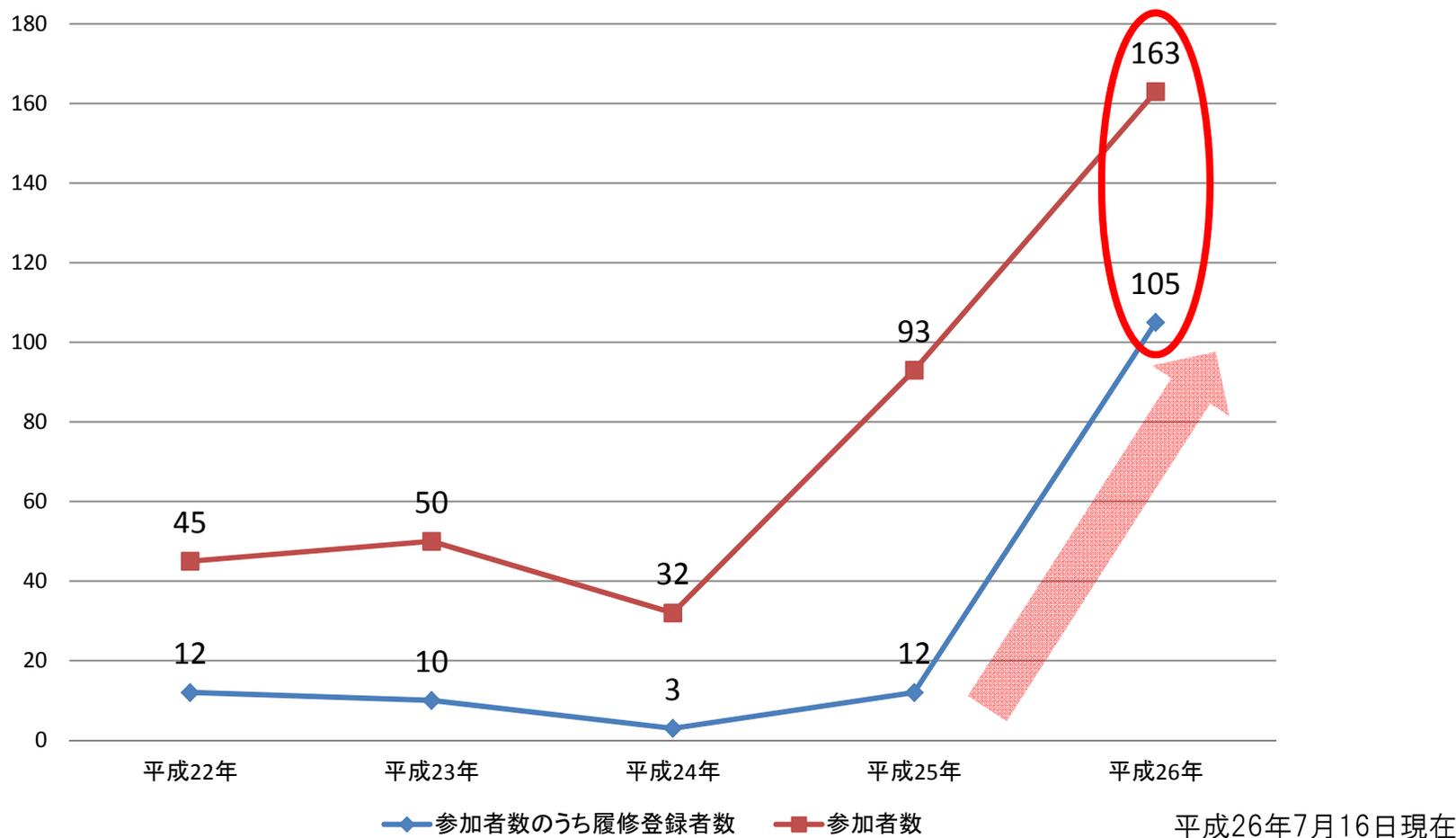
インターンシップ参加者数

インターンシップ参加者数推移



■ 夏季インターンシップの参加者数

夏期インターンシップ参加者数推移



参加者数, 履修率が大幅に増加



■ 1年全学必修「キャリア形成」 3つの特徴

1

多様な交流

・他者, 異文化から学ぶ

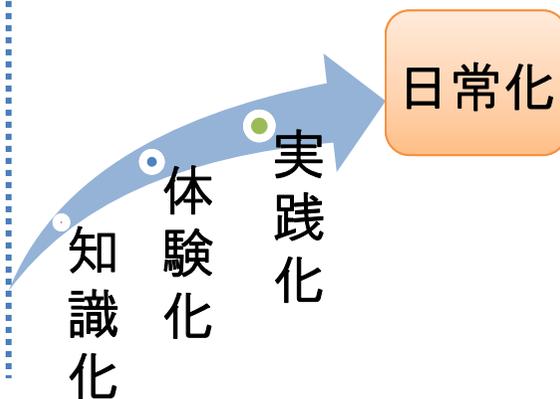


多くの人から
気づきを得る

2

体験型授業

自己理解・他者理解
研究室訪問(全研究室)



体験しながら模索,
検討, 理解する。

3

学校法人麻生塾 との共働授業

・社会を知る。
・卒業後の働く姿のイメージを持つ。
・業界研究の糸口とする

企業ゲーム

卒業生が出演する
DVD教材

社会人としての視点
を取り入れる。

■ 共働授業：就業意識の醸成

Step 1 知る

社会人としてどのような力が求められているのかを知る。



業界研究
企業ゲーム

Step 2 探る

DVD教材：設問
どのような対応が望ましいのかを考える。



ケーススタディ①
個人ワーク

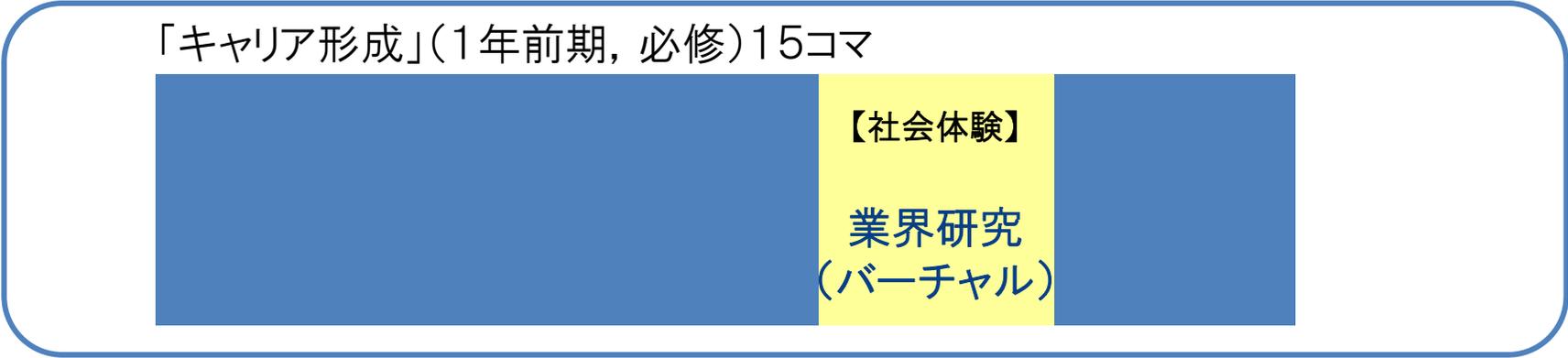
Step 3 創る

仲間と共に、望ましい
対応を考える。



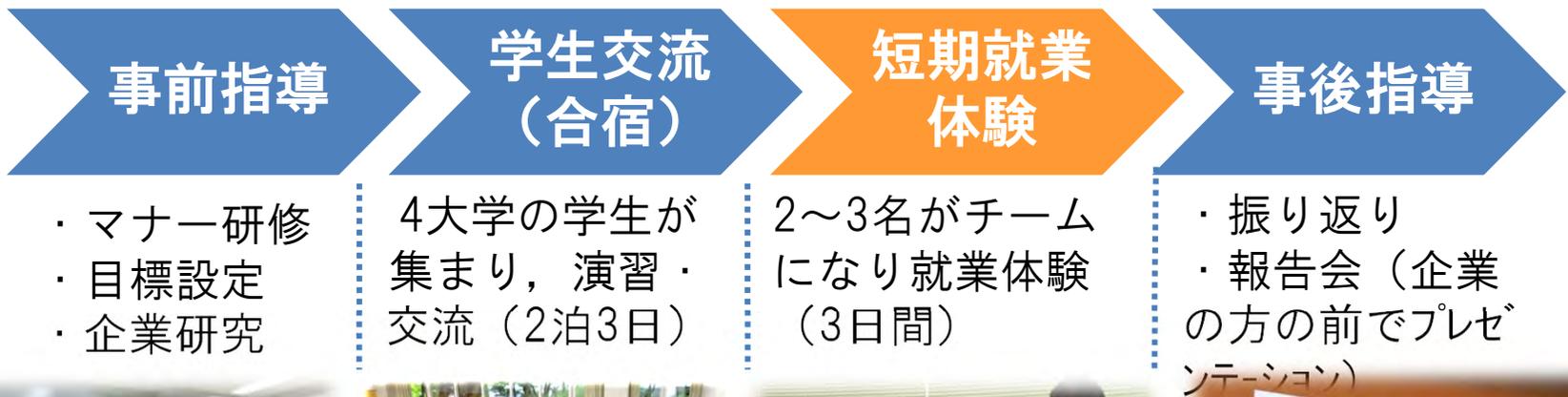
ケーススタディ②
グループワーク

■ 事例：アドバンスプログラム(短期就業体験)



アドバンス・プログラム

学内から学外へ



■ 短期就業体験：運営のポイント

11

1

大学独自に開拓した就業実習先

⇒地元中堅企業(業種・職種は様々), 就職実績があるとは限らない。

2

1年生の仕事理解を目的

⇒専門性は問うていない。早期の仕事理解を促している。

3

人事・総務の方に直接ねらいを説明

⇒典型的なカリキュラムをこちらから提示しながら, 担当の方とカリキュラムについて話しながら決定している。

■ 短期就業体験スケジュール例

企業様に以下のようなスケジュールを示し、説明している。

時間	1日目	2日目	3日目
	出社 出勤簿押印・着替え	出社 出勤簿押印・着替え	出社 出勤簿押印・着替え
8:30	朝礼 オリエンテーション	朝礼 担当者と打ち合わせ	朝礼 担当者と打ち合わせ
	講習 ^{1注)}	就業	就業
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	講習 ^{2注)}	就業	就業
15:00	就業	ディスカッション	就業
16:30	日報記入	日報記入等	振り返り, 日報記入
	片付け・着替え等 退社	片付け・着替え等 退社	片付け・着替え等 退社

注)「講習」の例としては、企業理念の説明、社内見学、ビジネスマナー説明など。

■ 短期就業体験：運営のポイント

13

1

大学独自に開拓した就業実習先

⇒地元中堅企業(業種・職種は様々), 就職実績があるとは限らない。

2

1年生の仕事理解を目的

⇒専門性は問うていない。早期の仕事理解を促している。

3

人事・総務の方に直接ねらいを説明

⇒典型的なカリキュラムをこちらから提示しながら, 担当の方とカリキュラムについて話しながら決定している。

4

教職協働で運営

⇒企業様との連絡調整は事務局が担当, 事前事後指導は教員が担当。
企業様とのやり取りの経緯や, 学生指導について, 教職員で随時連絡を取り把握している。